

「新型コロナウイルスとの闘い、 在外の学校現場から」

アメリカ ダラス補習授業校 佐藤恵美

目次

- ① はじめに
- ② 補習校としてGoogle Classroomを導入し、学習課題提示や提出物の回収、家庭との連絡等のツールとして活用中
- ③ 最後に

①はじめに

- グラス補習授業校では、3月中旬に発令された「自宅待機命令」(Stay at Order)により急な休校を余儀なくされた。
- そして、非常に残念ではあったが、卒園・卒業式や修了式等はすべて取りやめとなり、そのまま昨年度を終了した。
- その後、「このような状況で補習校としては何をどこまで子ども達に出来るか？」の協議を重ね、今年度4月13日の新年度初日より現在に至るまで、すべての学部においてオンラインによる対面授業を行っている。
- 現在の各学部におけるリモート学習の状況は次の通り。

② 補習校としてGoogle Classroomを導入し、学習課題提示や提出物の回収、家庭との連絡等のツールとして活用中。

学部	授業の様子	家庭学習
幼稚部 ・年中 ・年長	・ 一日の流れ (ZoomとGoogle Classroomの組み合わせで4時間分の授業を設定している) ・ Zoom学活や授業の内容 (対面の良さを生かす) 挨拶、呼名、言葉遊び、ゲーム、連絡事項など。 年長では、テーマを決めて自分の考えを発表する。 (例: 「家の中にある赤いものを1分間で探して持ってきてね。」 → それについて、画面で見えるクラスの友達に向けてスピーチをする。) ・ 毎週Google Classroomへ掲載される授業動画の視聴: 紙芝居 (毎週違う話) 読み聞かせ、毎月の歌、ラジオ体操、補習校の校歌、季節の工作、ひらがなや数字指導 (毎週) など。 ・ 毎週指示された課題に取り組む。 ◎ 子ども達の集中力を考慮して、30分後ごとに活動を変えてなど配慮している。	・ ひらがなと数字のドリル課題やプリント類をPDFで担任へメール送信や、写真に撮影をし、テキストメッセージとして携帯電話へ提出をする。 ・ 工作の成果物は、Zoom中に画面で見せ合ったり、写真に撮影したものをメールで提出する。

小学部	・最初は、すべての教科（国語・算数・社会）の授業動画やパワーポイント資料等による課題を作成しGoogle Classroomへ掲載。 ・途中からは、1～6時間目まで時間割通りにZoomもしくはGoogle Meetを使用し対面授業を実施中。 ・高学年では、リモート授業期間中は教科担任制を取っており、複数クラスを同時に指導している。 ・担当教師が指導中に、もう一名の教師がZoomやGoogle Meetのホストを担い、接続に関するトラブルシューティングや児童からのチャットにとる質問に対応をする。 (教師2名がチームとなり40名程度の児童を一斉指導)	・ワークシートやノートに行った宿題の画像をGoogle Classroomへ添付送信をする。 ・Google Classroom内でGoogle DocumentやGoogle Formへ直接タイプをして提出をする。 ・各種ドリル類は校舎授業が再開してから提出とし、それまでは自宅で保管していく。
中学部 高等部	・リモート授業開始時より、ZoomもしくはGoogle Meetを使用し対面授業を実施中。 ・教科担任ごとにリンク先を指定して、時間割に沿って生徒達が接続先を変えて、1～6時間目の授業を受ける。 ・オンライン授業中に、学習内容に関連する動画をクラス全員で視聴したり、教師が提示した資料を見ながら学習を進めている。	・Google Classroom内でGoogle DocumentやGoogle Formへ直接タイプをして提出をする。 ・教科によっては、授業中のノートを写真にとり、自分の携帯電話等からその場で教師に送信をする。

国際部

- ・ 最初は、音読資料（範読動画）やパワーポイント資料等による課題を作成しGoogle Classroomへ掲載。
- ・ 途中からは、校舎授業と同じく1～4時間目まで（午前授業で下校）をZoomで対面授業を実施中。
- ・ 対面授業では、パワーポイント教材を画面で示して説明をしたり、教師の範読を追い読みする音読活動等を教室授業とほぼ同様に指導している。
- ・ 4時間中、2.5時間は実際に画面上で授業し、残りの時間は教師から与えられた課題を、子ども自身が接続を切って取り組む時間としている。

- ・ 国際Ⅰ～Ⅲ（小1～6年齢）はプリント課題やワークシートに手書きで取り組む。
- ・ Google Classroom内でGoogle DocumentやGoogle Formへ直接タイプをして提出をする。

【Google Classroom の利点】

- 土曜日のオンラインによる対面授業に必要なワークシートの印刷や特別な教材の準備について、事前に掲載することができる。
⇒ 連絡もれの心配がないので、それを授業前日に見た子ども達が土曜朝までに授業準備を整えることができる。
 - Google documentやGoogle formに直接入力された課題は、メールを介さなくてもすぐに教師に届くので、双方にとって課題のやり取りが楽に行える。
 - また、画面上で教師がコメント入力したものを子ども達宛てにすぐに返却ができるので、コミュニケーションが迅速かつ効率よく行える。
 - 課題に提出期限を設定できるので、子ども達にとって「何をいつまでにすべきなのか」が把握しやすい。
 - 漢字テストなど、画面で正誤を確認した後に、すぐに子ども達へ点数やアドバイスを知らせることが出来る。
- ★リモート授業が終了しても、課題提示や宿題提出等に活用する予定である。

【Zoom や Google Meet の利点】

- 少人数のグループ討論や意見発表交流などに、Break room機能が大変便利である。子ども達の発言の場が増える。（Zoom）
- 画面共有をして、デジタル教科書やパワーポイント資料等を説明しながら授業を進めることが出来て、子ども達にとって視覚的に分かりやすい。
- 子ども達にとっては「一対一の個人指導」のような感覚になるようで、画面に食い入るように授業に集中していたり、指名された時にしっかりと発言が出来る子どもが増えた。

【児童生徒の反応】

- 自分一人で授業動画や授業スライドを見て学習するよりも、クラスメイトと一緒に授業を受けられることで、気持ちに張りが出る。
- 休み時間に画面上で友達とおしゃべりをしたり、チャットが出来たりすることがとても楽しい。
- 教室では静かめの児童生徒が、画面の中で指名を受けると発言が活性化している。
- 幼稚部の子ども達には、教師自作の「紙芝居読み聞かせ」動画が大変人気である。

【保護者の方々の反応】

- 画面に向かって、子ども達がとても集中して取り組んでいる姿が見られる。
- 画面を通じてでも、クラスの友達と一緒に勉強ができることが楽しそうでありがたい。
- 毎週、子ども達同士がお互いの顔を見られることを楽しみにしている。
- 自宅に居ながらにして、1～6時間目まで校舎授業を受けている時と同じ時間帯で学習することができるので、親も子どもも「土曜日は日本語の学習の日」と生活のペースがつけやすい。
- 一日終わると、「今日もがんばれた！」と達成感が感じられ、生活にメリハリがつく。

③ 最後に

- 現在は子ども達と顔を合わせ、教室で同じ時間を共有することはできなくとも、補習校と家庭とがしっかりと連携をし、「先週よりもより良い授業を！子ども達のためになる時間を！」をモットーに、毎週の授業づくりに励んでいます。
- この状況がいつまで続くのかまだ分かりませんが、近い将来に校舎での対面授業が再開される日を心待ちにしながら、今は画面の中で毎週子ども達と会えることを楽しみにがんばっていきます。